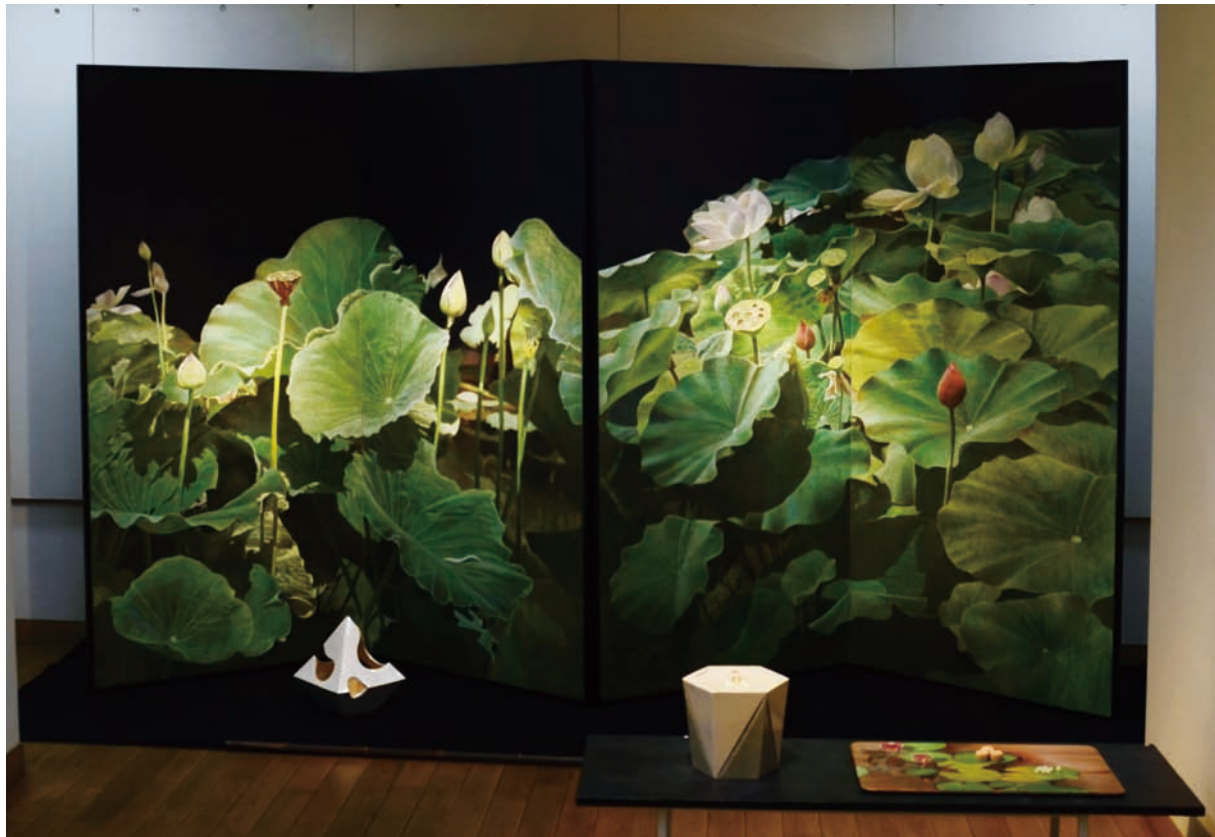




凱風
黒 二曲屏風 (川村悦子)、輝白刻線器 (清水六兵衛)



会場風景 —ギャラリー恵風 (京都)—
2011年11月8日 (火) ~ 11月20日 (日)



水指、蓋置
清水六兵衛 (形) × 川村悦子 (絵付)

面で構成していく制作手法の中で出会う、様々な形のバリエーションと面白さ。そして、空間をシャープなエッジで切り取ることから生まれる緊張感を求めてきました。茶道の道具に形を借りて作ったものが、茶室とは異なる空間の中でいかに存在を主張できるのか、茶室を離れて道具としての側面と造形作品としての側面を一つの空間の中で成立させることを狙った川村悦子さんのコラボレーション展です。

清水六兵衛

茶の湯には独特のコミュニケーションが育まれる。非日常の作法のなかで、非日常化した道具を用いて、たぎる釜の湯の音を聞きながら一服のお茶を飲む、無言のうちの一期一会の出会い。清水六兵衛さんとの二人展では道具としての作品の遊びを、人と人との交流を、そしてギャラリーという現代の空間に、伝統的なお茶をいかに溶け込ませるかを考えてみたいと思った。戦国の武将が好んだという「市中の山居」を目指して。

川村悦子